IT食農だより

発行元：豊橋技術科学大学　先端農業・バイオリサーチセンター
住所：〒441-8580　愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1
TEL：0532-44-6655　　E-mail：info@recab.tut.ac.jp

2023年6月15日
No.92

最先端植物工場マネージャー第11期生・IT食農先導士第7期生が先進施設視察研修を行いました！

4月22日（土）と5月20日（土）に、最先端植物工場マネージャー11期生とIT食農先導士養成プログラム（最先端土地利用型IT農業コース）7期生が、「先端施設研修」及び「先端IT農業研修」として、愛知県と静岡県の先進農家を視察しました。

4月22日は、(1) ㈲小久井農場：小久井孝幸氏・IT食農3期生（米、露地野菜の大規模経営及び堆肥製造状況等：愛知県岡崎市）、(2) ㈱にいみ農園（ミニトマト、イチジク、レタス等の栽培状況等：愛知県碧南市）を視察しました。小久井農園では、大規模露地栽培経営や地元の畜産農家と協力した、良質堆肥の製造現場や、自分の所で生産した大豆で製造した味噌や豆腐等の6次化商品を含む売店を、にいみ農園では、イチジク、ミニトマトのポット栽培やトマトジュース等を販売している売店を視察しました。

小久井農場の堆肥製造

にいみ農園　イチジクのポット栽培

また、5月20日は、(3) 鈴木農園：鈴木春雅氏・6次産業化5期生（イチゴ栽培：静岡県掛川市）、(4) 鈴木ファーム　鈴木永夫氏・植物工場マネージャー2期生、6次産業化2期生（葉ネギ栽培：静岡県浜松市）を視察しました。鈴木農園では、栽培面積を2倍にするつり下げ型のベンチのイチゴ栽培施設を、鈴木ファームでは、ネギの大規模周年栽培や外国人研修生の管理方法等を視察しました。受講生は、様々な先端施設園芸を見学し、最新の栽培技術や経営手法等の知識を得ることができ、充実した研修となりました。

（文責：山内高弘）

鈴木農園　イチゴ栽培施設

鈴木ファーム　ネギ栽培施設

受講生・修了生の活躍状況

それぞれの分野で活躍されているIT農業ネットワーク会員（人材育成プログラムの受講生・修了生）の皆さんの様子を新聞記事等からご紹介します 。

◆山田裕也さん
（植マネ1期生）スマート農業、取り組み進むICT活用、豊川のスプレーマム農家
豊川市特産のスプレーマムの若手農家たちが、情報通信技術（ICT）を駆使した「スマート農業」に取り組んでいる。少子高齢化で担い手が不足し、外国産の輸入が増える中、スプレーマムの一大産地として効率的に収穫量の増加を目指す。実験段階で効果は出ており、「産地の規模を大きくしていきたい」と手応えを口にする。

中日新聞県内版　2023年1月14日

◆鈴木達也さん
（土地利用4期生、6次化4期生）活発な交流につながれば日越の大学生院生らが起業やスポーツで意見交換
ドローン（無人航空機）の技術提携先のベトナムのダナン大学ソフトウエア開発センター（SDC）で、新城市のベンチャー企業「みかわ元気ものがたり」は、ダナン大学生らと豊橋技術科学大学の院生を取り持ち、意見交換会を開いた。日越の学生はドローンのほか起業やスポーツに関心が集まった。近く同様の意見交換会をオンラインで開く。「これが起爆剤となり、活発な交流につながれば」と期待を寄せている。

東日新聞　2023年5月10日

日越 意見交換会

◆小久井孝幸さん
（IT食農3期生）農作業通じ環境への配慮　岡崎の農場で親子ら田植
環境に配慮する農家の取り組みを、市民が農作業を通して学ぶイベント「田んぼで楽しく学べる！　未来につなげる米づくり！」（中日新聞社後援）が14日、岡崎市の小久井農場であった。県内外の親子ら4組が参加し、小雨が降る中、田植えに取り組んだ。

中日新聞　2023年5月16日

（文責：大木明美）

季節の花紹介6月「ゲンペイカズラ」

ゲンペイカズラ（学名：*Clerodendrum thomsoniae* Balf.）は、熱帯アフリカ西部原産のシソ科クサギ属のつる性常緑低木です。美しい花を咲かせることから、観賞用として世界の熱帯～亜熱帯地域で広く栽培されており、一部の地域で逸出したものが帰化植物として定着しています。日本には明治時代に渡来しており、植物園の温室などで栽培される他、あんどん仕立ての鉢物として流通しています。和名は「ゲンペイクサギ」ですが、別名である「ゲンペイカズラ」の名前がよく使われます。花期になると、上部の枝の葉腋から花序を出し、多数の花を咲かせます。花序は径10～15㎝の集散花序です。
春から秋は屋外やベランダの日当たりがよい場所に置きます。若干寒さに弱いので、冬の間は室内に取り込みます。越冬温度の目安は5℃以上です。寒さで落葉することがありますが、生きていれば(凍結や霜に当たるとアウトです)春に芽を吹いて復活します。
春から秋の生育期は水をよく吸うので土の表面が乾いたらたっぷりと水を与えるようにしましょう。冬は寒さで半ば休眠状態で水もさほど吸わないので、土の表面が乾いて数日たってから水を与えるようにします。落葉した株は完全に休眠しているので、特に過湿は気をつけましょう。水やりは与える量を減らすのではなく、回数を減らすのがこつです。
この花は、挿し木で増やすことができます。適期は5月～9月で、気温がある程度高い時期の方が成功率は高いです。新枝(まだ花をつけていない若い枝)を2節くらいの長さに切って、川砂など無肥料で清潔な土に指します。根が出るまで直射日光の当たらない明るい日陰で、乾かさないように管理します。

（文責：山内高弘）

ゲンペイカズラの写真